



文部科学省

地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2026 群馬

地域の力とともに子どもたちの学びを拓く ～地域教育COとの連携を通して～

新潟県新潟市立高志中等教育学校

校長 灰野 仁
地域教育CO 後藤 素子

新潟県新潟市

学校

新潟市立
高志中等教育学校

学校運営協議会

指定・設置年 令和4年

委員構成

- 地域代表
- 保護者
地域学校協働活動推進員等
住民
学生
NPO代表
商工会代表
関係機関職員
- 有識者
- その他
(市議会議員)

会議回数 年 4 回

地域学校協働活動

地域学校協働本部

○

地域学校協働活動推進員等

1名

(うち学校運営協議会委員0名)

背景・取組概要

- 新潟市では令和2年度から学校運営協議会の設置を進めてきた。令和6年度に市立幼・小・中・中等教育・高等学校の全171校園への設置完了。高志中等教育学校には令和4年度設置。
- 従前からある「地域と学校パートナーシップ事業」により、地域教育COの配置校を拡充し、平成25年度には市立の全校園への配置が完了した。

特徴・ポイント

【これまでの実態】

- 従前の「学校評議員会」を令和4年度に「学校運営協議会」に切替。当初の委員はこれまでの評議員から引き続いて委嘱。
- 地域教育COは「CS事務員」として会の運営や記録・便りの発行等の業務に携わる。
- 「6年間の教育課程を経て卒業までたどり着けない生徒」「学校の学びに充実感を感じられない生徒・保護者」等の割合が一定数あることが課題として挙げられていた。
- 地域教育COの配置はあったものの、地域からのボランティア依頼・調整にとどまるなど、十分な連携には至っていなかった。
- 大学教員を招いての講演依頼や、行政からの中高生年代生徒へのアンケート実施など、個別の依頼や受諾は進路指導部・総合探究部・学年部・学校長など個々バラバラに行われていた。

【学校運営協議会設置後の対応】

- 新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」の枠組みで、地域COの役割を明確化。
- 新潟市教育委員会による「新潟市高等学校等教育コンソーシアム」の活用により、地域との連携を深める。
- 生徒の実態の理解を深めたり、地域人材の可能性を広げたりする視点に立ち、学校運営協議会委員の改選を進める。任期満了に伴う改選時に後任人材の推挙を経て、新たに大学教授や市議会議員の加入を進めた。
- スクールミッション、スクールポリシー、学校教育目標等を踏まえ、生徒の自律を促す教育活動の位置づけを議論し、総合的な学習・探究の時間(教育課程内)において、地域人材を計画的に活用する方針を確認した。6年間の教育課程の中で発達段階に応じた講義内容を精査し、講師選定を進めた。(前期生「生き方対話会」、後期生「サンゴゼミ」等)
- PTAからの委託事業としてこれまで開催してきた土曜活用講座(教育課程外)の更なる充実を目指した。(大学・企業・行政等とのつながりを深めて多様な講師を選定、生徒の進路選択に資する講座の拡充に向けて)
- 地域教育COは学校運営協議会終了後、議事録に基づいて委員向けの便りを作成。学校HPにも掲載し、会議の内容を広く公表

成果・効果

- 総合的な学習・探究の時間の充実(意欲的に取り組む生徒の増加)や土曜活用講座の満足感向上(生徒・保護者アンケート記述内容・学校評価アンケートの数値改善等)
- 地域人材が関与する機会が増えたことで、生徒の考えや目指す姿に広がりが見られた。進路選択に有益な講義や講座を通して、自身の進路について具体的に考える姿が見られた。
- 生徒自身が地域とのつながりを感じ、自己有用感の高まりにつながった。地域の大人との関わりを通して、生徒のコミュニケーション能力の向上が見られた。

0. はじめに

学校基本情報

○所在地：新潟県新潟市中央区《新潟市唯一の中等教育学校》



- 学区は新潟市一円（入学時に市内に居住することが受検要件）
- 設置認可：平成20年（令和10年に創立20周年）
- 児童生徒数：648名（前期課程338名 後期課程310名）
各学年40名×3学級
※令和8年度1年生から35名×3学級へ

0. はじめに

スクール・ミッション

涵養を中核に据えた6年間の一貫した教育により、社会に変革を起こせる生徒を育成する学校

グラデュエーション・ポリシー

- 高い知性と豊かな人間性をもち、よりよい社会、世界の実現のために歩み続ける生徒
- 自らの可能性を信じ、明確な目的意識をもって、様々な人々と協働しながら、困難を乗り越える逞しさをもつ生徒

カリキュラム・ポリシー

- 社会や地域とのかかわりを取り入れた探究的な学びを中核に据え、教育課程を編成する。
- 仲間と協働しながら問題解決にあたる体験的活動を発達段階に応じて、各教科、領域などに位置付ける。
- 各教科・領域において、当校で獲得させたい資質・能力に関するルーブリックを活用し、生徒の学びの履歴として蓄積できるようにする。
- 生徒の自治的・主体的な活動を推進し、よりよい学校生活の実現のための方策を実践の中で具体的に指導する。

アドミッション・ポリシー

- 新たに学ぶための読解力や情報処理のための計算力などの基礎学力、発想力、論理的思考力、コミュニケーション能力の素地がある生徒
- 高い志、目的意識を持ち、新たな仲間と共に学び続け、ひたむきに自己の伸長を目指す生徒
- 広く社会に目を向け、解決すべき課題に正対し、よりよい社会づくりのために貢献していこうという意欲に溢れる生徒

0. はじめに

学校教育目標

志の涵養（こころざしのかんよう）

知性と人間性にあふれる高い志をもった次代のリーダーとなる生徒を、6年間という時間をかけ一貫した教育によりていねいに育てる

教育理念

自律と互恵（じりつとごけい）

自律＝自分で考え、自分の意志で行動すること

互敬＝互いのよさや持ち味を認め合い、尊重し合うこと

《生徒の実態》

- 多くの生徒は、大学進学を志向している（過去数年に遡って就職者数0）

【令和7年度卒業生の実績】

国立大医学部医学科現役合格、難関国公立、有名私立大合格者多数
4年制大学 進学者82名（卒業生96名中） 進学率85.4%

※合格者数、合格率とも過去最高の記録更新

- 女子生徒の割合が高く、素直で実直な生徒が多い
- 卒業まで続かず、進路変更する生徒も一定数いる

0. はじめに

《生徒の実態》

『令和4年度 前期学校評価アンケートの結果から』（一部抜粋）

			よく当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	未回答
設問5	よりよい社会や世界の実現のために何が必要かを考え、自分がやりたいことや目標を明確にもち、その実現にむかって着実に取り組んでいる。 ＜高い志＞	生徒	23.8	47.8	13.9	1.8	12.7
		保護者	12.8	43.2	28.3	1.9	13.7
設問9	外部機関（大学・企業・学校以外の講師等）と連携した教育活動（土曜活用の出前講座等含む）によって、思考力・判断力・表現力等が育まれている。 ＜キャリア発達＞	生徒	19.3	47.4	16.2	4.4	12.7
		保護者	9.6	45.0	27.0	4.6	13.8

「あまり当てはまらない」の割合が他の設問に比べて生徒・保護者ともに高い

1. 新潟市「地域と学校パートナーシップ事業」

事業の目的

第1条 新潟市の設置する小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等学校（以下「学校」という。）が、さらなる学校教育活動の充実を図るとともに、社会教育法第五条第2項に基づく地域学校協働活動に関する事項に基づき、豊かなコミュニティづくりのため、地域に開かれ、地域と共に歩むことができるように、学校と社会教育施設、地域との様々な活動を結ぶネットワークづくりや協働事業等を推進し、学・社・民の融合による教育を進めることを目的とし、新潟市地域と学校パートナーシップ事業（以下「事業」という。）を実施する。

事業の内容

- 第2条** 前条の目的を達成するため、次の取組を行う。
- （1） 学校と地域団体（地域コミュニティ協議会など）、社会教育施設（公民館など）を結ぶネットワークづくり
 - （2） 学校の教育活動における地域人材の参画と協働
 - （3） 学校における地域の学びの拠点づくり
 - （4） その他、事業を推進するために必要と認められる活動

1. 新潟市「地域と学校パートナーシップ事業」

地域教育コーディネーターの役割

第9条 地域教育コーディネーターは、学校と地域活動や社会教育施設の間の調整役となり、地域人材を発掘したり、学校を核とした地域ぐるみの教育活動を企画・運営するなどの役割を担い、次の職務を行う。

- (1) 学校や地域団体、社会教育施設との連絡、調整に関すること。
- (2) 学校支援ボランティアの組織、整備に関すること。
- (3) 地域の学びの拠点づくりに関すること。
- (4) その他、事業の推進に関すること。



地域の方と協働した鳥屋野潟清掃



新潟大学理学部と鳥屋野潟調査

2. 本校における学校運営協議会

設置年月

令和4年6月



協議会委員（令和4年設置当時）

- 保護者代表（元PTA会長、現PTA会長）
 - 地域住民代表（青少年育成協議会会長）
 - 地域住民代表（地区コミュニティ協議会正副会長）
 - 学識経験者（元公立中学校長）
 - 学校関係者（校長、前後期課程教頭、教務主任）
 - ◎CS事務員（地域教育CO）
- 計 1 1 名

前年度までの
学校評議委員
に引き続き依頼

2. 本校における学校運営協議会

協議会委員（令和8年4月現在）

- 保護者代表（前PTA会長、現PTA正副会長）
- 地域住民代表（青少年育成協議会会長）
- 地域住民代表（地区コミュニティ協議会副会長）
- 学識経験者（元公立中学校長）
- 学識経験者（私立大学教授）
- 地域住民代表（市議会議員）
- 学校関係者（校長、前後期課程教頭、教務主任）
- ◎CS事務員（地域教育CO）

計 12名

任期 2 年の後

○継続を了承
される方

○継続できない方
は後任を推挙



毎年、1～2名の
入れ替わり

2. 本校における学校運営協議会

第1回協議会協議内容（令和4年）

- 学校運営の基本方針の説明と承認（学校長より）
- 地域と学校パートナーシップ事業内容について
 - ◎学校支援活動と地域貢献活動を重点に計画する
 - ◎土曜活用事業において地域人材を発掘し活用する 他

第2回協議会協議内容（令和4年）

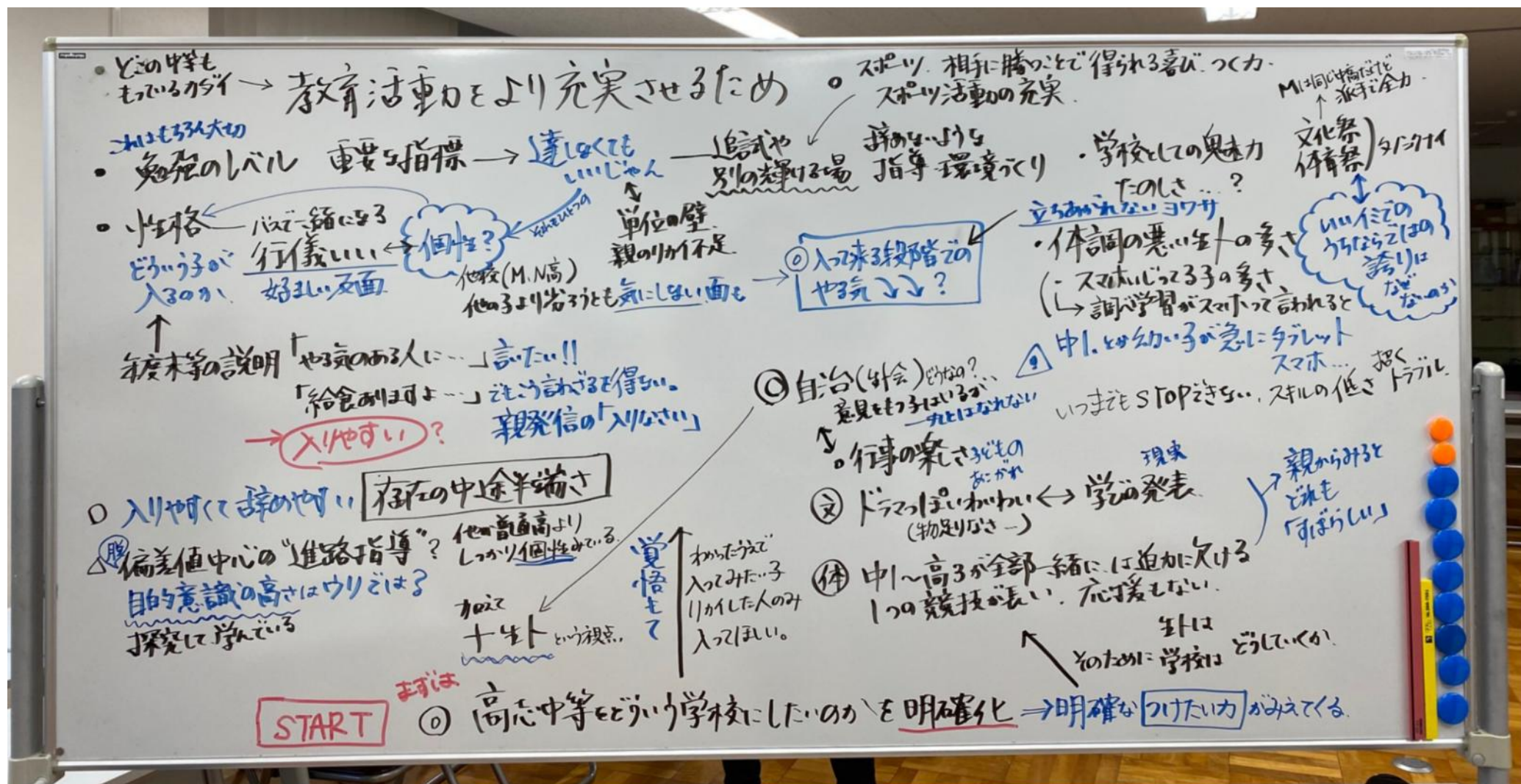
- 学校の学校生活を振り返って（学校長より）
- 教育活動を充実させるための方策について
 - ◎学校のイメージ、魅力や課題について
 - ◎学校生活・行事の現状や学習等の意欲について 他



2. 本校における学校運営協議会

第2回協議会協議内容（令和4年）

◎ 教務主任によるファシリテーショングラフィック



2. 本校における学校運営協議会

第2回協議会協議内容（令和4年）

◎ 地域で活躍する生徒の姿を共有



柳都振興体験

新潟市観光政策課からの委託



観光ルートアイディア

新潟市の観光活性化に向けて教育旅行メニューを体験モニター
高校生の目線で、これからの新潟市の観光を見つめ直す

3. 地域人材の活用と地域教育 C O の役割

これまでの協議会における協議内容（抜粋）

- 周囲の学校や地域の人々と関わる機会がほとんど無い
（令和 5 年 8 月 生徒会役員との合同開催「高志の未来を語る会」より）
- 土曜活用講座の難易度が見える化（初級・中級・上級）し、受講者が選べるようにする
- 多種・多様な講座を開設し、より多くの生徒にフィットできるようにする
（令和 6 年 5 月の第 1 回学校運営協議会より）
- 総合型選抜に向けた探究活動の充実が求められる
（令和 7 年 5 月の第 1 回学校運営協議会より）

土曜活用講座とは

- PTAからの委託により実施している土曜活用事業の一つ
※ 過去に週 5 日制で減少した授業時数を補うための土曜授業として実施していた取組
（模試監督や進路選択に係る教育相談なども含まれる）
- 現在は、地域人材（学・社・民）から講師を招き、生徒向け講座の開設に替えている
- 授業の延長ではなく地域人材の活用を通して、学校の授業では学べない講座を開設

3. 地域人材の活用と地域教育C Oの役割

新潟市高等学校等教育コンソーシアム

令和3年6月～

大学等

新潟大学はじめ市内にある
1 2の国公立大学・短期大学

新潟市立高等学校等
・万代高等学校
・明鏡高等学校
・高志中等教育学校

企業等

新潟青年会議所等
市内にある事業所・協会・NPO法人

行政

新潟市役所各部
新潟市教育委員会各課

3. 地域人材の活用と地域教育C Oの役割

総合的な学習の時間・総合的な探究の時間



地域の社会人に学ぶ「生き方対話会」



地域の社会人を講師に招いて
「サンゴーゼミ（3～5年生の縦割探究）」

- 各学年総合探究部と連携
※テーマに即した事業所や団体と連絡調整
- 大学・企業（業種等）・行政のバランスを考え、生徒の学びに資する講師の選定
- 該当学年・分掌等からの振り返り、講師側からの聞き取りを行い、次年度への修正に生かす

3. 地域人材の活用と地域教育C Oの役割

土曜活用講座の様子



起業家精神を学ぶ



本物の医療機器の使用体験



高齢者疑似体験



親子でヴォイストレーニング

- 年間の開講日と講座内容の見通しを立てる
- 講座内容の難易度を加味して講師を選定
- 受講者(生徒・保護者)向けの案内作成及び参加者の集約
- 当日の運営をPTAと協議(ボランティア募集)
- 受講者アンケートを実施し、開講講座の見直しを進める
- 講師にも事後の聞き取りを行い、反省点をまとめる

3. 地域人材の活用と地域教育C Oの役割

「CS便り」の発行（年4回）



5月23日(金)、今年度の第1回学校運営協議会（コミュニティ・スクール 通称CS）が高志中等教育学校校長室で開催されました。会に先立ち、学校長より昨年度に引き続き副会長を継続される田村様と新任の土肥様、そして今年度着任の山田教頭に委嘱状が交付されました。続いて、各委員による自己紹介、教頭による市教委の資料に基づいたCSについての事前説明があり、その後、議事に沿って協議が行われました。

《事前説明の内容》学校運営協議会の役割と重要性

- 学校運営協議会の主な役割は、学校運営の基本方針の承認、学校運営に関する意見表明、教職員の任用に関する意見表明
- 学校運営協議会は学校運営や子どもに必要な支援について協議する合議体であり、地域と学校のパートナーシップを構築することが大切。そのためには、委員一人一人が自分事として学校運営に参加し、熟議を通じて意見を出し合うことが求められる
- 熟議とは、子どもたちの育成について互いの意見を尊重しながら話し合い、新しいアイデアを生み出していく過程
- ファシリテーションの手法を用いて、全員の意見を引き出し、共通認識を持つことが重要
- 学校運営協議会とパートナーシップ事業の一体的な取組を進めることで、地域と学校の連携・協働体制をより充実させていくことができる。その際、目標の共有、具体的な活動の実行、振り返りと改善を行っていくことが重要

【学校運営協議会メンバー】

会長 筒井明子 元高志中等教育学校 PTA会長	委員 灰野仁 高志中等教育学校 校長
副会長 田村純子 高志中等教育学校 PTA会長	委員 竹内滋之 高志中等教育学校 教頭
委員 土肥幸枝 高志中等教育学校 PTA副会長	委員 山田篤 高志中等教育学校 教頭
委員 松田暢夫 山湯中学校区青少年育成協議会 会長	委員 高橋祐子 高志中等教育学校 教務主任
委員 豊嶋直美 山湯地区社会福祉協議会 会長	CS事務局 後藤素子 高志中等教育学校地域教育 CO
委員 阿部篤義 紫竹山校区コミュニティ協議会 会長	
委員 本間修一 元新潟柳都中学校 校長	
委員 岩崎保之 関西大学文学部 教授	

《議事》

- (1) 令和7年度学校経営基本方針について
令和7年度学校経営基本方針について質疑応答した後、全委員の挙手により承認されました。
- (2) 教育ビジョンについて
新潟市教育ビジョンという名称が新潟市教育振興基本計画「にいがた学びのコンパス」に改められました。新潟市が目指す方向性と高志中等教育学校の魅力の伸長や課題への対応を可能とした教育ビジョンとなるよう今年度大きく刷新しました。
教育目標である『志の涵養』を中核に掲げた6年間の一貫した教育により、社会に変革を起こせる人材を育成します。



【当校の学校運営協議会や教育ビジョンに対して委員の皆様から出された主な発言】

- ＜学校運営協議会について＞
 - ・協議が報告や質問のみで熟議が行われていない。
 - ・委員一人一人が安心して意見を出し合える場の雰囲気づくりが必要だ。
 - ・話し合った内容が役割分担や実行までつながらない。
- ＜教育ビジョンについて＞
 - ・子どもの視点に立って、丁寧な指導と評価を行うことが重要だ。
 - ・探究学習における「探究とは何か」を生徒自身に問いかけることが大切である。
 - ・生徒の主体性を引き出し、レジリエンスを育むための教師の伴走支援が重要である。
 - ・生徒の活躍の場を増やせるよう、保護者や地域に発信することが求められる。
 - ・進学実績向上の背景にある、中堅校の丁寧な個別支援の取り組みは評価できる。
 - ・生徒の学校への愛着を醸成する仕掛けづくりが必要だ。
 - ・総合型選抜に向けた探究活動の充実が求められる。

【発言を受けて学校からの説明】

- ・協議を単発で終わらせるのではなく、回を重ねて熟議できるようにします。
- ・教育ビジョンの見直しと分かりやすい表現となるよう修正を加えます。
- ・探究学習の充実や教員の指導力向上に取り組みます。

事前説明を受け、以下のことを踏まえ議事に入ったことで、各委員が役割を持って発言し、次につながる協議をすることができました。

よりよい学校運営協議会にするために ～学校と地域でそれぞれ取り組むべきこと～

学校でやるべきこと

- ・委員一人一人が安心して意見を出し合える雰囲気づくり
- ・会議の冒頭で、何のために意見を出し合うのかを明確にする
- ・話し合った内容の役割分担とPDCAサイクルの活用
- ・特に深めたい議題に焦点を絞った熟議の実施
- ・教職員の働き方改革や防災など、学校と地域の共通課題についての熟議

地域でやるべきこと

- ・学校運営協議会への積極的な参加と意見提言
- ・学校と地域の連携・協働体制の構築
- ・学校の取組への理解と協力
- ・学校と地域の共通課題解決に向けた協議と行動

学校と地域が連携して取り組むべきこと

- ・熟議を通じた地域の課題解決への取組
- ・生徒の主体的な学びと地域貢献活動の連携
- ・地域人材の学校教育への活用
- ・学校と地域の情報共有と相互理解の深化

議事に対して委員の皆様から大変貴重なご意見等をいただきました。委員の皆さんのご意見やご要望を日頃の教育活動に反映し、改善していく方向で進めてまいります。



今後のCS会議の予定

- 第2回 7月31日(木)
- 第3回 10月31日(金)
- 第4回 2月10日(火)

15:15～16:45

学校運営協議会の様子をまとめ委員に送付→学校HPにも掲載し協議内容を周知

4. これまでの成果

『令和8年度 土曜活用講座実施アンケートから』（一部抜粋）

【講座②：臨床工学技士って知ってる？】（生徒）

Q 講義を受けようと思った理由、きっかけ

A 将来の夢で、医者か看護師になろうと思っているから、臨床工学について詳しく知りたいと思ったから。

Q 本日の講義を受けた感想、気づいたこと

A 今まで、臨床工学技士はあまり知らなかったもので、今日話を聞いて、とても興味がわいた。進路でこの仕事を選択してもよいなと感じた。

【講座④：気象データを農業や生活に生かす】（保護者）

Q 講義を受けようと思った理由、きっかけ

A 土曜活用講座がどういうものか知りたかったことと、本講義が最も興味があったことから（タイトルに引き寄せられた）

Q 本日の講義を受けた感想、気づいたこと

A G Xが成長分野であることや社会人の常識と今後なることがよくわかった。

4. これまでの成果

『令和7年度 後期学校評価アンケートの結果から』（一部抜粋）

			よく当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	未回答
設問5	よりよい社会や世界の実現のために何が必要かを考え、自分がやりたいことや目標を明確にもち、その実現にむかって着実に取り組んでいる。 ＜高い志＞	生徒	32.1 (+8.3)	55.0 (+7.2)	11.8 (▲2.1)	1.1 (▲0.7)	
		保護者	17.7 (+4.9)	52.5 (+9.3)	26.6 (▲1.7)	3.2 (+1.3)	
設問8	外部機関（大学・企業・学校以外の講師等）と連携した教育活動（土曜活用の出前講座等含む）によって、思考力・判断力・表現力等が育まれている。 ＜キャリア発達＞	生徒	25.0 (+5.7)	59.2 (+11.8)	13.2 (▲3.0)	2.7 (▲1.7)	
		保護者	13.5 (+3.9)	53.9 (+8.9)	28.6 (+1.6)	3.9 (▲0.7)	

令和4年度との比較（※「未回答」項目を除外したことを考慮して比較）

- ◎ 肯定的評価の回答が生徒・保護者とも向上している。
- ◎ 否定的評価については生徒の回答は減少が見られる。
- ◆ 保護者の否定的評価で増加が見られる。

4. これまでの成果

《生徒の変容》

『2026 にいがたカナル彩 活動報告書より』（一部抜粋）

- 日頃、大人と関わる機会が少ない生徒にとってイベントの開催に向けて活動している(働いている)大人の姿を間近で見る貴重な機会になった。
- 活動する生徒に励ましやお褒めの言葉をかけていただき、地域で必要とされていることを実感することができた。(自己有用感を得ることができた)
- 人と関わることや、初めての活動に挑戦することでそれぞれの生徒のスキルアップやコミュニケーション能力の向上につながった。
- 多くの来場者のある大きなイベントが登校している地域で開催されることを知り、生徒が地域に誇りを持つことができた。

地域のイベントにおいて、環境整備への取組について表彰される本校生徒 →

